

B-125 和服寸法設定のための基礎研究(第1報)
日本女大家政 ○大塚美智子 樋口ゆき子

目的 和服は平面的、直線的構成の衣服であるため着付けの是非が和服の着心地の大きな要因となると考えられている。しかし着付けられて衣服としての形態が完成した場合、立体構成の衣服と同様に体型ならびに動作に適合する寸法が要求される。そこで今回は和服の身幅寸法に着眼し、和服着用時の体型ならびに動作に適合する身幅の設定を目的に官能検査法により着用実験を行った。

方法 白浴衣地を用いた袖のない単衣長着による実験服を作成し着用実験を行った。被験者は日本女子大学学生6名である。実験の要因と水準は体型—普通体型、厚みのある体型、扁平な体型の3水準、割り出し法—M式、I式、D式の3水準である。また着用実験における基本動作は、下半身に関係が深いと思われる4動作すなわち歩行、椅座、正座、階段昇降をとりあげ、正常姿勢を加え5水準とした。実験項目は正常姿勢への適合性と動作への適合性である。判定は和服に関する知識をもつ3名の観測者および着用者により、観測者は身幅の外観について、着用者は着心地について5段階で判定を行った。データの解析は累積度数に基づく三元配置の分散分析法によった。

結果 1) 分散分析の結果、正常姿勢の外観および着用者の着心地の優劣は割り出し法と関係が深いということが明らかになった。

2) 動作に適合性の高い割り出し法は、黄金比による割り出し法—D式であった。